

北大病院循環器内科で運動負荷心エコー図検査を受けられた患者さんまたは ご家族のかたへ（臨床研究に関する情報）

北海道大学大学院 循環病態内科学では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、北大病院において、通常の診療で得られる診療記録や検査結果を分析することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。

[研究課題名] 心臓病患者を対象とした運動負荷心エコー図検査と予後との関連に関する研究

[研究機関・長の氏名] 北海道大学病院 秋田 弘俊

[研究責任者名・所属] 辻永 真吾（北海道大学大学院 循環病態内科学教室 特任助教）

[研究の目的]

心臓病とは、心臓の構造や機能(働き)の異常により生じる病気の総称で、その中に、心不全、冠動脈疾患(虚血性心疾患ともいう)、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、先天性心疾患などがあります。心臓病は、悪性新生物(がん)、脳血管疾患(脳卒中)と並ぶ日本人の三大死因のひとつで、世界の中でも類まれな高齢化社会を迎えている我が国において、その患者数が急激に増加しています。心臓病を有する患者は、安静にしている時は特に症状がなくても、労作(身体を動かすこと)によって、息切れや易疲労感を感じる人が多いです。これは、心臓が労作つまり心臓に負荷がかかった状態の時に、心臓の不具合によって、身体が必要とする十分な血液を送り出せないことに起因すると考えられています。近年、安静時だけでなく運動時の心臓の形態や機能の変化を簡単にそしてダイナミックに評価できる運動負荷心エコー図検査が我が国でも行われるようになってきました。しかし、運動負荷心エコー図検査で得られた様々な検査所見と心臓病患者さんの予後(病気の今後の見通し)との関連はよくわかっていません。そこで、私達は当院で運動負荷心エコー図検査が施行された心臓病患者さんを対象に、運動負荷心エコー図検査で得られた所見とその後の心臓病の見通しとの関連を調査し研究したいと考えています。そして、その研究結果を今後の心臓病患者さんの病気の状態評価や予後予測、さらには治療に役立てていきたいと考えています。

[研究の方法]

対象となる方

2016年8月から2025年3月までに北海道大学病院循環器内科において、運動負荷心エコー検査が施行された心臓病患者さん。

利用するカルテ情報

1. 診療記録から、運動負荷心エコー検査実施時（±28日のデータを利用）の年齢、性別、身長、体重、診断名、病歴、家族歴、身体所見、採血検査結果、心肺運動負荷試験結果（実施されている場合）、右心カテーテル検査結果（実施されている場合）を調査させていただきます。運動負荷心エコー検査実施後5年間の臨床経過および心血管イベント（全死亡、心臓死、心不全増悪、不整脈（心房細動、心室頻拍、心室細動）、急性冠症候群、脳血管障害）の有無を調査させていただきます。
2. 運動負荷心エコー検査で得られた所見と心血管イベント発生との関連を調査させていただきます。また、心臓病患者さんの運動負荷に伴う心臓の形態や機能の変化を調べさせていただきます。そして、運動負荷心エコー検査で得られた所見と採血で得られた心負荷マーカーであるBNPやNT-proBNPとの関連や心肺運動負荷試験・右心カテーテル検査結果との関連を調べさせていただきます。

[研究実施期間]

病院長による実施許可日～2031年3月31日（登録締切日：2025年3月31日）

[個人情報の取り扱い]

この研究に関して、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

本研究の実施にあたり、研究に利用する患者さんの情報に関しては、研究担当者が北海道大学病院内で診療記録や心エコー検査記録を収集した後、お名前、ご住所、患者さん個人を特定できる情報を削除した上で管理いたします。また、研究成果を学会や学術雑誌などに発表する予定ですが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[連絡先]

札幌市北区北15条西7丁目

北海道大学大学院 循環病態内科学教室 特任助教 辻永 真吾（研究責任者）

電話：011-706-6973, FAX：011-706-7874